

4年次

皮膚

【Dermatology】

担当責任者 教授（皮膚科学） 中村 元信

ねらい

1. 各種皮膚病変における発症機序を理解する。
2. 皮膚疾患の診断における考え方を習得する。
3. 皮膚疾患の治療法の原則を習得する。
4. 内臓病変と皮膚病変の関連性を理解する。
5. 手術法の考え方を理解する。

学修目標

1. 皮膚の正常構造と機能を説明できる。(Ⅱ-1)
2. 各皮膚疾患の病因とそれぞれの皮膚疾患における異常を説明できる。(Ⅱ-5)
3. 各皮膚疾患の診断と診療について説明できる。(Ⅱ-6)

事前事後学習の方法

1. 指定教科書をよく読み、予習課題を仕上げておくこと。
2. 講義内容を配布資料を見直し、復習しておくこと。

成績評価方法・基準

1. テスト(約8割)、計約3回の授業レポート(約2割)の結果を基に総合的に判断する。
2. 100点満点換算で、A、B、C、D、Fの5段階評価とする。

○教科書

あたらしい皮膚科学 第3版(中山書店)

○参考書

玉置邦彦 総編 最新皮膚科学体系(中山書店)

講義:2201講義室

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者
				大項目	中項目	小項目	
R3.4.1	木	Ⅱ	皮膚の構造 表皮、真皮、付属器、角化	D	3	1	中村 元信
4.8	〃	〃	皮膚発疹学・病理組織学 皮膚病変の記載(原発疹、続発疹)、 皮膚の病理組織学的所見	F	1	10	〃
4.15	〃	〃	皮膚疾患の診断・検査法 生検、蛍光抗体法、酵素抗体法、真菌検査、 貼付試験、皮内反応	D	3	2	〃
5.7	金	Ⅲ	形成外科学 創傷治癒、熱傷	〃	〃	1	安田 浩
5.13	木	Ⅳ	皮膚の機能 免疫、メラニン合成	〃	〃	〃	中村 元信
5.14	金	Ⅴ	湿疹・皮膚炎、 とくに接触皮膚炎とアトピー性皮膚炎、痒疹	〃	〃	4	〃

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者
				大項目	中項目	小項目	
R3.5.27	木	IV	レポート提出 蕁麻疹、紫斑、血管炎、好酸球性膿疱性毛嚢炎	D	3	4	中村 元信
6.3	〃	V	感染症1 感染症対策 せつ、膿痂疹、丹毒、蜂窩織炎、SSSSなど化膿菌 感染症、皮膚結核、ハンセン病、梅毒、AIDS (※)	D,E	3,1	4,4	〃
6.17	〃	〃	乾癬、掌蹠膿疱症、ライター病	D	3	4	〃
6.25	金	III	感染症2 感染症対策 真菌感染症、白癬、カンジダ症、癬風、 スポロトリコーシスなど (※)	D,E	3,1	4,4	〃
〃	〃	V	職業性皮膚疾患 職業性因子による諸種の皮膚障害、接触皮膚炎、 ざ瘡様発疹、タール皮膚炎、放射線皮膚炎、 熱傷癌、諸種の感染症など	D	3	4	山本 佳世
7.15	木	〃	光線過敏症	〃	〃	〃	中村 元信
7.16	金	III	悪性リンパ腫、ランゲルハンス細胞組織球症、 EBウイルス	〃	〃	〃	〃
10.7	木	II	レポート提出 膠原病 SLE、DLE、皮膚筋炎、強皮症など	E	〃	〃	〃
10.14	〃	〃	皮膚疾患の治療法 外用療法、内服療法、光線療法、手術療法	D	〃	〃	〃
10.21	〃	〃	全身疾患による皮膚症状	〃	〃	〃	〃
10.28	〃	〃	上皮性腫瘍 粉瘤、脂漏性角化症、有棘細胞癌、基底細胞癌、 ボーエン病、パジェット病	〃	〃	〃	〃
〃	〃	III	悪性黒色腫、血管腫	〃	〃	〃	〃
11.9	火	〃	自己炎症性疾患	C	〃	2	〃
11.11	木	II	多形滲出性紅斑、結節性紅斑、扁平苔癬、 紅皮症、薬疹	D	〃	4	〃
11.16	火	III	代謝異常症・形成異常症・皮膚萎縮 アミロイドーシス	〃	〃	〃	〃
11.18	木	II	ざ瘡、酒さ、色素異常症(レーザー治療含む) (白皮症、尋常性白斑、肝斑、雀卵斑含む)	〃	〃	〃	〃
11.25	〃	〃	水疱症・膿疱症 天疱瘡、類天疱瘡など自己免疫性水疱症	〃	〃	〃	〃
12.2	〃	〃	レポート提出 母斑・母斑症 色素性母斑、太田母斑、脂腺母斑、 レックリングハウゼン病、プリングル病	〃	〃	〃	〃
12.9	〃	V	感染症3 感染症対策 単純疱疹、帯状疱疹、疣贅などウイルス性疾患、 ライム病、つつが虫病 (※)	D,E	3,1	4,4	〃